

来週の『売り物』記事はこれ



2016年3月25日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

11歳の私を捜して 長崎原爆孤児の願い

27日(日)



長崎原爆が投下された71年前の夏、爆心の南約1^{km}で被爆し、孤児となった11歳の少女。身寄りを求めて逃れた福岡県上毛町の集落で、体験を語り続ける写真がありました。原爆投下翌日に長崎市へ入り、被害状況を撮影した写真家、故・山端庸介氏の撮影した百十数枚のうち一枚です。爆心の南約2.5^{km}、長崎市八千代町付近で撮影されたもので、左中程に写った一人の女性が、両親を捜し求めて焦土をさまよった11歳の自分に思えてならないと言います。29日に施行される安全保障関連法に不安も感じます。「平和な時代に生きて幸せに思うちょります。けんど、世の中がどう変わっていくか、痛みが分からないからでしょうか。戦争は私のような浮浪児を生むんじゃき」。今は81歳となった財城アキ子さんの秘めてきた胸中をたどりま



日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

政治、経済の混乱が続くブラジル

開幕迫るリオデジャネイロ五輪は大丈夫なのか？

夕刊2面特集ワイド 28日(月)



リオデジャネイロ五輪の開幕が8月に迫るブラジルは今、政治、経済ともに大混乱に陥っています。成長するはずの経済は落ち込み、汚職疑惑が浮上したルラ前大統領をかばうルセフ大統領の支持率は1桁台で、政府に反発するデモに数百万人も集まるという状況です。また、リオー帯は世界有数の犯罪多発地域で、治安上の懸念も指摘されています。果たしてリオ五輪はうまくいくのでしょうか。人口2億人の熱い大国・ブラジルの人々に聞いてみました。

「女の気持ちをたずねて」

おんなのしんぶん  28日(月)

「くらしナビ」面で連載している「女の気持ち」に投稿した読者を訪ね、その後の様子などを描く人気コーナー。今回は、大阪府吹田市の鈴木景子さんを、大阪編集局の相原洋編集委員が訪ねました。

「慢性疲労症候群」という難病を発症して30年になる鈴木さん。特効薬はなく、対症療法に頼る生活ですが、がんの手術をした夫といたわり合いながら、日々を送っています。昨年末、38歳の息子さんが彼女と選んだプレゼントを贈ってくれました。それは、夫からプロポーズの時に渡されたもの同様、真珠でできたアクセサリでした…。鈴木さんのこれまでとこれからをつづっています。ぜひ、ご一読を。



スーパーフード

くらしナビ面 31日(木)



アサイーやチアシードなどの食材は「スーパーフード」と呼ばれ、近年は数多く出回っています。特定の栄養成分を豊富に含み、「健康や美容に良い」とうたったものは多いのですが、中には効果や効能が明確でないものもあります。一方、北海道ではスーパーフードを地域活性の起爆剤にする動きも出ています。スーパーフードの現状を報告します。

新連載「がん大国白書 第1部 新薬の光と影」

29日（火）朝刊スタート

国民の2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで亡くなるという「がん大国」日本におけるがん医療、がん対策に迫る新連載「がん大国白書」がスタートします。今年、国内のがん医療の充実を目指した「がん対策基本法」が成立して10年に当たります。新連載では、医療の現場を歩き、患者らの悩みに耳を傾け、新しい時代のがん医療や社会の姿を提案します。第1部では、高い効果が期待できる一方、高額化など新たな課題が見えてきた抗がん剤の今を紹介します。



賭博に「験担ぎ」で現金やりとり……

プロ野球界に自浄能力はあるのか？

元ロッテ投手 小林至さんに聞く

オピニオン面【そこが聞きたい】 31日（木）



球界の盟主、巨人軍で発覚した野球賭博問題。公式戦では「験担ぎ」として、選手間で現金のやりとりがあったことも発覚しました。巨人に限ったことではなく、阪神など他球団でも常態化していたといいます。一般社会とはかけ離れた感覚はどこに起因するのか。球界に自浄能力はあるのでしょうか。元ロッテ投手で江戸川大教授の小林至さんにその深層を聞きました。

時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。

私小説の先駆け

朝刊文化面 2日（土）

文学の名作ゆかりの地を訪ねるシリーズ「名作の現場」は、田山花袋の「蒲団（ふとん）」（1907年）について作家の島田雅彦さんが執筆します。主人公の中年作家は妻との生活を物憂く思う一方、好意を寄せる若い女性の弟子に対しては保護者としての立場を余儀なくされ、もんもんとします。内面の赤裸々な告白は当時、衝撃を与えました。日本の自然主義文学を代表する作品であり、私小説の先駆けとされます。舞台の東京・小石川を歩き、島田さんが考えます。

